

## 先進プロジェクト研究「多文化共生社会に向けたデジタルテキストの可能性」 2012年度プロジェクトの概要

小澤巨・増田幸子・國廣敏文

デジタルテキストのユニバーサルデザイン（＝障がいの有無にかかわらず、だれにとっても便利であるという特色）である DAISY は、Digital Accessible Information System の略であり、文章・音声・画像を統合したデジタルテキスト作成のための世界規格である。DAISY コンソーシアムという国際的組織によって、視覚・聴覚障害、弱視、LD（学習困難）とくに、ディスレキシア（読み書き困難）など、さまざまな障がいを乗り越える画期的な支援技術として世界に普及しつつある。

本先進プロジェクト研究では、そうしたデジタルテキストにおける多文化共生社会構築に向けた可能性に注目し、日本に在住する外国人（児童・成人）の日本語・母国語学習支援および開発途上国の基礎教育支援のツールとして、いかに応用できるかという課題を巡って、国内外のネットワーク形成を通じてアクションリサーチを実施しながら社会学的な研究を目指している。

本先進プロジェクトは、多文化共生に関する研究、グローバリゼーションとメディアに関わる研究、NGO ネットワークの構築に関する研究、基礎教育格差の乗り越えとインクルーシブな福祉社会を展望する研究など、多様な先進研究のシーズを多く含んでいる。

本年度は、DAISY コンソーシアム会長河村宏氏、岸政彦龍谷大学准教授、NOP「子育ては親育て みのりのもり劇場」代表伊豆田千加氏、藤山一郎和歌山大学准教授、リリアン・テルミ・ハタノ近畿大学准教授、NPO「リテラコヤ新潟」代表佐々木香織氏、内田 晴子京都文教大学非常勤講師・京都市適応指導員、彦根市国際交流員平田エジナ氏をゲストとして迎え、先端的な知見を得るとともに、ネットワーク形成を図った。

具体的なアクションリサーチは、1) 湖南省石部南小学校における外国人児童学習支援、2) 湖南省国際協会・教育委員会による母語教室の設立支援、3) 京都市御室小学校におけるインドネシア人児童学習支援、4) 京都市日野小学校におけるフィリピン人児童学習支援、5) 京都市右京区を基盤とする子どもによる DAISY 絵本作成ワークなどのフィールドにおいて実施した。こうしたアクションリサーチによって、トランスナショナルな外国人児童支援の新たな提起、学校の ITC 化に対するコミュニティ側の支援システムの新たな提起という斬新なアイデアを構築・提起することができた。

これらの研究成果は、ISTR など国際学会で報告した他、国際ボランティア学会でもその一端を報告した。なお、国際ボランティア学会では、優秀発表賞を授与されている。

また、作成された DAISY 電子図書（多言語版を含む）の日本国内および世界での共有化を目指して、茨城大学 KISSEL と連携して、ウェブサイトを立ち上げ、本先進プロジェクト研究成果の社会的発信を開始している。